

家事・育児の分担

家事も育児も妻の私がしないと!?



「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」と考える人は減ってきています。^{※1}とはいえ実際は、**女性の方が多く家事や育児に時間をかけているのが現状**です。

6歳未満の子がいる夫婦の家事・育児関連の時間 (週全体平均・1日あたり)



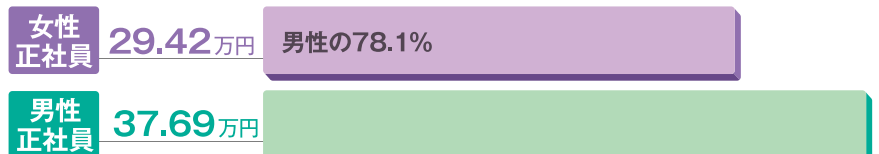
※2

家事や育児を一人で引き受ける「ワンオペ育児」は、大きな負担がかかります。ワンオペではなくても、「毎日の食事のメニューを考えて買い出しするのは妻か夫か」「子どもが熱を出したら仕事を休むのは妻か夫か」と具体的に考えたとき、**妻がやるものといった思い込みはないでしょうか。**

「家事・育児は女性の仕事」といった固定観念に加えて、社会の仕組みも大きく影響しています。

例えば、正社員で働いていても女性と男性では収入に差があります。子育て世帯で妻と夫のどちらかが時短で働く場合、収入がなるべく減らない選択をする人は多いでしょう。待機児童問題があるように、子どもの預け先が見つからなければ妻が仕事を辞めて家事・育児に専念することになるかもしれません。

正社員男女の賃金格差



※3

積極的に家事や育児に取り組みたいと考える男性にとっては、長時間労働が妨げになります。妻が専業主婦でも共働きでも、男性が家事・育児に使う時間はあまり違いがありません。一方で、共働きの女性が仕事に使う時間は男性のおよそ半分となっています。^{※2}

家事や育児は暮らしの中で欠かせない仕事です。**「女性だから」「男性だから」と性別で役割を決めてしまわない**ように、私たちの意識も社会も変えていきましょう。

出典

※1「令和6年 男女共同参画社会に関する世論調査」(内閣府)

※2「令和3年 社会生活基本調査」(総務省統計局)

※3「令和6年 賃金構造基本統計調査」(厚生労働省)

